

講義名	オ)高齢者心理学		
担当教員	蜂屋 真 / 銅直 優子		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 2時限	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

この授業は、老化の現象を心理的側面から理解することを目的としている。心理的側面では、高齢者の記憶や知能の機能について解説し、それらが損なわれる認知症について詳述する。また、高齢期に生じ易いうつ病について理解し、その対応について学習する。その他、老化によって、性格や心理状態などがどのように変化していくかを理解し、高齢者に対してどのような心理的援助法があり、どのような効果があるのかについて学習する。加齢による記憶機能や知能の変化について理解を深めるとともに、認知症に対する理解とケアを学ぶ。体力や知的側面の衰えは心理面にも大きく影響を及ぼしている現実が高齢者の生きがいや死生観にどのような影響を及ぼしているのかを心理面から理解をしていくと同時に老年期における心理測定や心理療法についても学んでいく。

到達目標

高齢期の記憶や知能の機能について、理解することができるようになる。
 高齢期の心理的側面の特徴について、理解することができるようになる。
 高齢期の人たちに対する関わり方や心理援助について、理解することができるようになる。

提出課題

2名の教員それぞれが何らかの課題（レポートなど）の提出を指示する。課題内容は、オンライン授業内や講義連絡等で指示するので、各自責任をもって定期的に確認すること。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

複数教員での担当のため、各教員が学生の要望に応じて対応する。

評価の基準

課題やレポート：100%

履修にあたっての注意・助言他

ひとつでも課題を提出しなかった場合は、合格が極めて難しいと思われるので、授業内や講義連絡等における指示や説明をしっかりと理解し、課題全てを提出すること。担当教員によっては課題や授業方法も違ってくるため、授業内や講義連絡等での確認をしっかりと行うこと。

この授業は、月曜2回開講の「オ）高齢者心理学」の授業を加工したものを視聴するという形式で行われる。従って、この授業教材については、月曜日2時間目以降から翌日の火曜日までに、講義連絡にて提示されるので、必ず確認すること。

教科書				
.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

【参考文献】
 よくわかる高齢者の心理 近藤勉著 ナカニシヤ出版
 高齢者の「こころ」 藤岡 井上輝也・大川一郎編中央法規
 高齢者のこころの理解とケアに役立つ「成熟と老化の心理学」谷口幸一編著 コーレル社
 壊れた脳 生存する知 山田規弘子著 講談社
 恍惚の人 有吉佐和子 新潮社（新潮文庫）

授業計画

- 1 高齢者心理学とは（担当：蜂屋、銅直）
- 2 日本社会と高齢化（担当：蜂屋）
- 3 高齢者の記憶（1）（担当：蜂屋）
- 4 高齢者の記憶（2）（担当：蜂屋）
- 5 高齢者の知能（担当：蜂屋）
- 6 高齢者の不適応心理 - 認知症（1）-（担当：蜂屋）
- 7 高齢者の不適応心理 - 認知症（2）-（担当：蜂屋）
- 8 高齢者の不適応心理 - 恍惚の人（有吉佐和子）の鑑賞 -（担当：蜂屋）
- 9 認知高齢者と認知高齢者を抱える家族の心理（担当：銅直）
- 10 高齢者の不適応心理 - うつ病（担当：銅直）
- 11 高齢者の不適応心理 - うつ病と自殺、うつ病と認知症 -（担当：銅直）
- 12 高齢者のアセスメント（担当：銅直）
- 13 高齢者の性格特徴と自己概念（担当：銅直）
- 14 高齢者に対する心理的援助法（担当：銅直）
- 15 高齢者の心理的援助（担当：銅直）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

【蜂屋担当分】
 予習：授業内容に関連する書籍を、前もって読んでおくこと（2時間）。
 復習：授業内容に関連する書籍を復習として活用し、疑問点はメールで教員に尋ねること（2時間）。
 【銅直担当分】
 参考文献などを用いて自らのテーマに関する領域を熟読し重要語句を書き出しておくこと（予習：2時間）、また、授業の配布資料とノートを見直し、要点をまとめること（復習：2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

到達目標を達成することで、ディプロマポリシーの「人々の心理など、現実社会の様々なテーマに取り組み、よりよい人間社会を創造すること」と「援助を求める人の心理と行動の知識を有し、ビジネス場面と援助場面で心理学を応用すること」に貢献することができる。また、到達目標からを達成することで、ディプロマポリシーの「人間の精神機能に関する基礎的知識を有し、さまざまな場面に直面する人間の心理と行動を科学的に分析し予測すること」に貢献することができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考